

I. ゴールド・ラッシュ (Gold Rush) とカリフォルニア州の誕生

◆1848年1月24日 シェラ・ネバダの西麓を流れるサクラメント川付近から砂金が発見された。この噂は六月、全カリフォルニアにひろがり、金発見の公式の報告は九月中旬にワシントンに到達した。1848年12月5日の大統領の教書にのり全国の主要な新聞に掲載された。

「船員は船をすてて、兵士は兵営を脱出して」殺到するありさまであった。ロンドンにも五つの交易・鉱山会社がつくられて、ヨーロッパ各地からカリフォルニア行きの人びとを募った。金鉱掘りを始めとして、商人、職人、ホテル業者、銀行家、弁護士、売春婦までもがカリフォルニアに押し寄せた。

◆1848年からの二年間に、カリフォルニアの人口は二万人から約十万に膨れ上がった。この大勢の移住者は「フォーティーナイナーズ」forty-niners (1849年の人びと) と呼ばれ、カリフォルニアの農業、鉱業、経済の急速な開発を促した。1853年までにカリフォルニアの人口は約25万人にまでふくれあがった。ゴールド・ラッシュによる発展も一因となり、カリフォルニアは1850年9月にアメリカの一州に加えられた。しかし自由州（奴隷制を認めない州）と決められた為、合衆国政府に対する南部の人たちの不満は募った。

II. 大陸横断鉄道

◆“I've Been Working on the Railroad” (「線路の仕事」)

アメリカの民謡。日本では、明るく楽しい汽車の旅を歌った童謡として広く知られている。原曲は、1863年から始まった大陸横断鉄道建設に携わったアイルランド系の工夫達によって歌われ始めたもので、線路工夫の過酷な労働を歌った民謡・労働歌の一つである。

I've been working on the railroad	俺は線路で働いている
All the livelong day	まる一日中だ
I've been working on the railroad	俺は線路で働いている
Just to pass the time away	あっという間に時間が過ぎてゆく
Don't you hear the whistle blowing	警笛が鳴り響くのが聞こえるだろ
Rise up so early in the morn	こんな朝っぱらから起きろってさ
Don't you hear the captain shouting	親方の叫び声が聞こえるだろ
Dinah, blow your horn	ダイナ、ホーンを吹き鳴らさせてさ
Dinah, won't you blow	ダイナ、吹き鳴らしてくれ
Dinah, won't you blow	ダイナ、吹き鳴らしてくれ
Dinah, won't you blow your ho-o-orn	ダイナ、吹き鳴らしてくれ、お前のホーンを
Dinah, won't you blow	(繰返し)
Dinah, won't you blow	
Dinah, won't you blow your horn	

◆1859年、アメリカ合衆国では、東部の鉄道網がミズーリ川を越えてネブラスカ州オマハまで到達していた。西部開拓が進む中、この鉄道の西海岸までの延伸を求める声が高まっていた。1862年、「太平洋鉄道法」が制定され、連邦政府の財政支援のもとで大陸横断鉄道の建設が推進された。同法の制定はエイブラハム・リンカーン大統領の業績の一つでもあり、南北戦争など分離主義の動きが高まる中、広大なアメリカ合衆国の連邦としての統合を維持するという側面もあった。セントラル・パシフィック（CP）鉄道がカリフォルニア州サクラメントから東を目指し（1,110 km=690 マイル）、ユニオン・パシフィック鉄道（UP）がネブラスカ州オマハから西を目指した（1,749 km=1,087 マイル）。1869年5月10日は、アメリカ鉄道史における記念すべき日である。この日、ユタ準州のプロモントリーサミットで、最初のアメリカ大陸横断鉄道が開通した。

◆鉄道の建設にあたり、UP鉄道の首脳は、クレジット・モビリエ（Crédit Mobilier）という工事請負会社をつくり、建設費を水増ししてこの会社に支払わせ、その会社を通じて実際の工事費 5 千万ドルに対して、7,300 万ドルを自分たちの懐に入れた。CP鉄道の首脳スタンフォード（1824～1893、スタンフォード大学の創立者）やハンチントン（1821～1900）などは、数千万ドルにおよぶ巨額の金をこのような手段で私物化した。その為これらの鉄道会社はその後、負債を返すために、貨客から高い運賃をとらなければならなかった。又このような不正を政府の監査から免れるために、鉄道会社の支配者たちが、上下両院議員に多額の贈賄をしたことはいうまでもない。

◆この鉄道建設はインディアンの出沒する荒野や、険しいシェラ・ネバダの山脈を横断して行なわれたため、機材の運搬や建設に非常な困難があり、多くの労働者を必要とした。UP鉄道は主として平原の工事であったので、技術的困難は少なかったがインディアンの襲撃を防ぐため、南北戦争後は北軍の除隊兵を防衛と労働力に、さらにアイルランドの移民を大量に使用した。CP鉄道の場合は、機材を南米の南端まわりで船ではこび、さらにはシェラ・ネバダの陰崖をけずり、あるいはトンネルを掘る難工事が続いた。そのために中国から 1 万人のクーリー（＝苦力。労働者）を入れた。彼らは低賃金でよく働いた。これら外国移民の犠牲のうえに最初の大陸横断鉄道は築かれたのである。また鉄道建設によってインディアンはその居住地を追われ、その上彼らの生活の糧である数百万頭の野牛は、鉄道工事関係者の食糧となって激減した。インディアン部族の独立は、鉄道の建設によって破壊されたといってもよい。

◆鉄道は営業によってでなく、建設によって不当な利益をあげたのであるから、鉄道資本家は建設が 1 マイルでも多く出来ることを望み、労働者を酷使し、工事の容易な路線を選び、粗雑な工事を行なった。その為に、後に工事のやり直しをしなければならないものが多かった。建設による利益は他にも鉄道敷設の企画を誘発し、ノーザン・パシフィック、サンタ・フェ、サザン・パシフィックの 3 線が建設され、それぞれ広大な土地の付与や建設費の貸与を、連邦政府や州政府から受けた。

◆19 世紀末までに連邦や州政府から鉄道会社に対して付与された土地は、約 7,200 万ヘクタール、連邦政府のみの貸付金は 6,500 万ドルにのぼった。南北戦争の終わったとき、鉄道の総延長は 5 万 6 千キロであったが、1900 年には 42 万キロに延びた。この数字は、アメリカの経済発展と地域開発の一つの指標である。

◆**車両の特徴**：北米大陸は豊富な森林資源に恵まれていたので、機関車は石炭ではなく薪を燃料とした。火の粉止めを備えた太いダイヤモンド型の煙突や、野生動物を排除するカウキャッチャー、ワゴントップ型ボイラーなどが組み合わされて、アメリカの特徴的な機関車が生み出された。エアブレーキの発明

によって長い列車を編成できるようになり、ボギー台車や自動連結機も採用された。又このあいだにブルマンとよばれる寝台車と、食堂車も連結されるようになって、旅行は快適になった。

広大な領域をもつアメリカの発展、とくに西部の発展上、鉄道のもつ意義は列挙しきれないほど、大きい。それを実証するかのようになり、これらの鉄道の一大起点となったシカゴは急速に発展した。

(石橋秀雄、山上正太郎著「世界の歴史 11 帝国主義への道」社会思想社 1975 年による)

Ⅲ. 西部開拓

◆マニフェスト・デスティニー (Manifest Destiny)

「明白な(必然の)運命」あるいは「膨張の天命」と訳され、アメリカの「領土拡大は神の意志」であるという考え方を示す言葉。1845 年 J.オサリバンが初めて使った。それは 40 年代の一連の領土拡張政策、すなわちテキサス併合、オレゴン併合、アメリカ＝メキシコ戦争によるニューメキシコ、カリフォルニアなどの獲得を正当化する論拠としてまたたく間に広く愛用されるようになった。19 世紀後半には、さらにキューバ、アラスカ、ハワイ、フィリピンなどへの進出を合理化するイデオロギーとして、民主・共和両党のスローガンに登場し、アメリカの人種的・文化的優越感に基づく帝国主義的進出を支えた。

(ブリタニカ国際大百科事典による)

◆「ホームステッド法」(Homestead and Exemption Laws)

南北戦争中の 1862 年にリンカーン大統領が制定した自営農地法。自作農創設法とも呼ばれる。共和党政権がミシシッピ川以西を開発するために立法したもので、五年間定住して開拓をすれば成年者に男女を問わず、160 エーカー (64 ヘクタール) の土地が無償であたえられた。土地投機にも悪用されたが、西部開拓に大きな役割を果たした。また西部の農民たちは北部を支援することとなった。ホームステッダーとは、この法によって入植してきた開拓農民たちを指す。1976 年廃止。

(出典 旺文社世界史事典 三訂版による)

◆カウボーイ

南北戦争終結後の 1865 年以降、北部の諸都市で高い利益を生む牛肉市場が形成されると、多くのテキサス州民が牛の飼育に従事するようになった。牧畜業はグレートプレーンズを越えてカナダへ、また西のロッキー山脈へと広がった。一般的に約 2500 頭の牛の群れにカウボーイ 8~12 人が伴って牛の世話をする。秋になると、共有の放牧地で持ち主のいない牛なども含めて牛を駆り集め、商標としての焼印がまだ押されていない牛には焼印を押し、冬の間は牛の群れを見守り、春になると市場に出せる状態の牛を選び、最寄りの鉄道駅がある町まで群れを移送した。その道程は数百 km に及ぶことが多かった。

町で牛を東部の買い手に売り渡したカウボーイたちはつかの間の息抜きを楽しんだのち、帰途について次の 1 年の営みを始めた。西部開拓による農地の拡大に伴って放牧地は農場へと転換されていった。牛追いたちも 1890 年には鉄道の線路付近などで有刺鉄線に囲まれた牧場に定住することを強いられた。こうしてカウボーイは衰退したが、19 世紀末から 20 世紀にかけていわゆる三文小説などフィクションの世界において、独立独歩を貫く風格の備わった西部の寡黙なヒーローという人物像が定着し、映画やテレビドラマを通じて語り継がれている。

(ブリタニカ国際大百科事典による)

◆ロング・ドライブ

南北戦争の終わったとき、テキサス州には角の長いロングホーン種の牛が六百万頭にもふえて、自然の状態に放牧されていた。この牛は皮を利用するだけで、肉牛として利用したくとも市場が遠すぎ、輸送の便がなかったので、一頭四ドルほどで買えた。

ところが鉄道が北方のカンザス、ネブラスカ、ワイオミングの各州にのび、カンザス市やシカゴには食肉加工業が発達してきたので、牛を鉄道の沿線にまで運び、これを貨車につんでカンザス市やシカゴに輸送することができるようになった。こうしていわゆるロング・ドライブが生まれた。ロング・ドライブというのは、千頭から一万頭におよぶ一群の牛を、カウボーイが一日 15 キロぐらいのおそい速度で、未開拓の原野に牧草や水をもとめつつ、しだいに北の鉄道沿線の家畜市場に追って行くことである。それによって牛はテキサスの十倍以上の値段で売れた。

カウボーイは、牛を追ってインディアンのための留保地とされたオクラホマを通過するときインディアンの牧地の草を牛に食べさせるので、彼らから通行料を請求されたが、それを無視して紛争をおこした。

西部の草原地帯に自作農が進出し、ロング・ドライブの通路を、この農場が占拠するようになると、ロング・ドライブの無法者のカウボーイは、有刺鉄線を切って耕作地のなかに牛を追いかけることもあった。こうしたカウボーイと自営農民の争いは、しばしばであった。

◆先住民族

牧畜と農業の進出は、インディアンの運命に最後のとどめをさした。

白人による鉄道、鉱山、牧畜の経営によって、インディアンはその原住地を追われた。

インディアンはげしく抵抗し、ときには 1876 年のモンタナの場合のように、ジョージ・カスターにひきいられた米軍を全滅させるようなこともあったが、北のスー族も、南方のアパッチ族も、しだいに征服されていった。

1886 年のアパッチの指導者ジェロニモの降伏は、インディアン反抗の終わりであった。

1887 年政府は「ドーズ法」を制定し、インディアンの部族制を解体して、家族に分け、これに市民権と各人に土地とをあたえた。しかし土地は白人にだまし取られ、平原の農業は慣れぬインディアンには無理であったが、ドーズ法制定の年を転機に、インディアンの人口はしだいに増加に向かった（1950 年で約 34 万 3 千人）。

（石橋秀雄、山上正太郎著「世界の歴史 11 帝国主義への道」社会思想社 1975 年による）

◆理解を深める 9 本の映像作品

①『アイアン・ホース』“The Iron Horse”（1924 年：監督ジョン・フォード）

大陸横断鉄道の建設と開通までを描く巨匠ジョン・フォード若干 29 歳の記念碑的作品。

②『大平原』“Union Pacific”（1939 年：監督セシル・B・デミル）

大陸横断鉄道建設をユニオン・パシフィック鉄道の側から描いたドラマ。民謡「I've been working on the railroad（線路の仕事）」が映画の主題曲として使われている。

③『キートン将軍』“The General” (1926 年：共同監督 Clyde Bruckman、バスター・キートン)

機関車「The General (将軍号)」を奪われた喜劇王キートンの孤軍奮闘ぶり。兵員輸送など南北戦争における鉄道の重要性がよくわかる作品。『キートンの大列車追跡』『キートンの大列車強盗』の邦題あり。

④『八十日間世界一周』“Around the World in 80 Days” (1956 年：監督マイケル・アンダーソン)

ジュール・ヴェルヌによる同名小説の映画化作品。原作では、主人公フォッグ氏は 1872 年 10 月 2 日 20 時 45 分にロンドンを出発し、東回りで世界一周をめざす。もちろん開通したばかりのアメリカ大陸横断鉄道も利用する。第 29 回アカデミー賞 5 部門を受賞。40 人に及ぶスターのカメオ出演と、ヴィクター・ヤング作曲の主題テーマ曲「Around the World」はあまりにも有名。

⑤『西部開拓史』“How the West Was Won” (1962 年：監督ヘンリー・ハサウェイ、ジョン・フォード、ジョージ・マーシャル、リチャード・ソープ)

アメリカ西部開拓時代の 1839 年から 1889 年までの 50 年間を、開拓一家プレスコット家が三代にわたってアリゾナに移住するまでを描いた全 5 話からなる一大叙事詩。

⑥『大草原の小さな家』“Little House on the Prairie” (1974 年～1982 年：監督ウィリアム・F・クラクストン、モーリー・デクスター、ヴィクター・フレンチ、マイケル・ランドン、レオ・ペン)

1870 年代から 1880 年代にかけて、ウィスコンシン州～カンザス州～ミネソタ州～サウスダコタ州と移り住むインガルス一家の物語。米 NBC 製作全 9 シーズンにわたる TV ドラマ。原作はローラ・インガルス・ワイルダー（日本では、NHK で 1975 年～1982 年に放送）

⑦『3 時 10 分、決断のとき』“3:10 to Yuma” (2007 年：監督ジェームズ・マンゴールド)

孤立無援の中、逮捕した強盗団首領を「ユマ行き 3 時 10 分発」の護送列車に乗せようとする牧場主の物語。1957 年に公開された『決断の 3 時 10 分』（監督デルマー・デイヴィス）のリメイク。こちらも心理描写が素晴らしい。両作品ともおすすめ。

⑧『ローン・レンジャー』“The Lone Ranger” (2013 年：ゴア・ヴァービンスキー監督)

西部の王者 ローン・レンジャー 4 度目の映画化作品。大陸横断鉄道の開通式が再現されている。それに続く機関車同士の追跡劇も見もの。

⑨『バック・トゥ・ザ・フューチャー PART3』“Back to the Future Part III” (1990 年：ロバート・ゼメキス監督)

シリーズ三部作の完結編。1985 年（現在）から出発したシリーズは、前二作で 1955 年～2015 年を往復するが、本作では一気に百年前の 1885 年へと時間移動する。鉄道が開通し、駅が出来、町が発展していくさまが描かれている。これはマーティ（マイケル・J・フォックス）の旅であると同時に、時計塔のあるヒルバレーという町の歴史物語でもあった。